

朝野新聞

第千三百五十一号

大坂ゆゑ有名な豊太夫語り豊竹小鞆太夫村
弥七の同所御吳社内の標座へ出勤し打つぎ
評判より二月廿五午後芝居も別々小鞆ハ
便所に至り折現と出る武智光秀テナシ
入の男が手拭を面部と包と白及び推方口頃
の眼と思ひ知れと肩先四寸切付倒れ処
と左の腕と打落し猶救け所と手と負せ跡
白浪と逃失り此物音ハ一座人々其場へ欠
付太夫の姿見ると其騒動大なる事バ
相手ハ誰と手負小同へハ小鞆徳と云ひの
終りとて息絶られ其趣と訴る右小鞆
徳といハ梶村今兵士と云て御吳標座の道見方
と昨午迄勤め居るが去冬小鞆ハ紀州へ居れ
一座不残連行ハ小鞆徳の残一帰坂の後以
前の如く彼者と雇ひられ其紀州行は除けと
根持て出勤とめりが夫ホの意恨と云ん
との風説也梶徳ハ小鞆が生死を問定めんと
芝居の床下潜居るが終り頭道のみと
難きと知り自殺しと果つといふ



明治十二年 御届
三月十八日

新虎町三丁目九番地 南傳馬町二丁目二番地
重工 山崎徳三郎 出版人 林吉蔵

明治十二年 信